

いつも目が離せません。

新しい年を迎えるにあたり、皆様はどのような新年を迎えるのでしょうか。昨年の元旦は、能登半島地震が起こり、どのような年になるのだろうかと不安を感じさせました。実際、実に多くの事件が起これ、時代が変わりつつあることを実感させられた一年でした。

国際関係では、ウクライナ紛争、イスラエル・ガザ紛争が続き、アメリカ大統領選挙ではトランプ氏が返り咲くことになり、いよいよ予測不可能な時代が到来しそうです。アメリカだけでなく、ヨーロッパの主要国でも政情が不安定になつており、さらに隣の韓国では一時的に戒厳令が発出されるという驚くべき事件も起きました。近年世界経済を牽引してきた中国経済の成長の鈍化につ

明けましておめでとうございます。皆様はどのような新年を迎えたのでしょうか。昨年の元旦は、能登半島地震が起こり、どのような年になるのだろうかと不安を感じさせました。実際、実に多くの事件が起

ることで、ことなりました。実際、実に多くの事件が起

った。これから日本の政治状況も大きく変わろうとしています。

こうした激動の時代だからこそ、学生たちは地に足をつけて勉学に励み、しっかりと物の見方を身につけてもらいたいのです。

詳細につきましては、次号以降において、順次お知らせしたいと思います。

紹介が遅れましたが、本年度は、任期制助教を含め、八名の方が新任教員として赴任されました。多くの若い先生方を迎えて、中央大学経学部がさらなる発展をすることを期待したいと思います。



桜広場の向かいの花壇にて、年末にかけて花の植替えがありました。葉牡丹が見事です。

庵谷 治男 准教授（管理会計論）
小倉 将志郎 准教授（金融論）
蒲谷 景准教授（環境経済学）
中澤 克佳 准教授（経済政策論）
堀内 英次 准教授（産業構造論）
森 いづみ 准教授（社会学）
陳 希助教（中国語）
仲地 二葉 助教

新しい年を迎える、中大経済学部も新しい一步を踏み出そうとしています



学部改革

さて、経済学部も社会状況の変化に対応すべく変わろうとしています。昨年六月の総会において学部長が「新しい経済学部の姿を検討中」とおつしやっていた学科改編が、いよいよ具体化します。

OB・OGの皆さんの中には、馴染みのある学科名称がなくなるかもしれません。

しかし社会情勢の変化による新たな課題に応え、経済学の高い専門的知識をもつて社会的諸課題に向き合える人材を育てるために

カリキュラムをバージョンアップする一環です。ご理解くださいます。

本年度新任教員



五七年ぶりの思い出

白門経友会常任幹事 高梨明宏

◆始めに

私は退職後十八年、傘寿を迎える元職員です。歳月の経過は早いもので、この間、囲碁、家庭菜園、ハワイアン演奏、国内外の旅行やスキー等退屈せず楽しんできました。これは偏に本学に奉職したお陰と感謝しています。

◆出会い

私の楽しみは美味しい蕎麦で一杯飲むこと。月並みな趣味だが、神田まつや、上野丸井裏の藪そばなどが好みだ。自宅近くでも何軒かあるが、祖師谷大蔵のさか本に時々寄る。麵は少し太めで香り食感も気に入っている。昨年五月中旬に立ち寄った時も四〇分程度待たされた。コロナの後遺症か相席はせず、一人で六人掛けのテーブルに申し訳なさそうにビールと蕎麦を楽しんでいる初老の人がいた。

◆青山先生からの質問

私も一人であるが四人掛けのテーブルに案内された。外には大勢並んでいるので、六人掛けのテーブルの人と相席でよいですと申し出たら、

店の若い女性は恐縮して相席となつた。見ず知らずの外で並んでいる人に対する配慮が昭和生まれの我々であります。その相席の男性もホツとした顔をされたので、六人掛けテーブルで飲まれるのは気まずいですよね、

私も四人掛けのテーブルを案内されたのですが：相席ありがとうございます、と会釈したら喜ばれた。呑み助はすぐこんなことで気が合うものだ。

私はその方を一目見て大学の先生と推察、そちら方面の話をしたら岡星。外語大スペイン語科を出られ桜

美林大学大学院国際学術研究科（言語教育）に勤められている青山文啓教授でした。そこで今は亡き福井千春先生を思い出し、そのお名前を訪ねましたら、何で福井さんの名前をご存じなのかと驚かれ、私は元中大

職員で福井先生とはよく学食で一緒に食していました、と言いました。

誰に相談しても無反応、この秋から過激な大学紛争が始まり、要項の検討すらできない日々が続きました。暴力学生に机や椅子を中庭に持ち出され、その修復作業も毎日加わり、仕事どころの騒ぎでは

ない時代です。自分の感覚で斬新なものを作れという事務長の指示もあり、学生の立場で理解しやすい要項をと考へ、丁寧な説明に改めました。文学部事務室担当者の賛同もあり、昭和四四年度から法と文で改めました。他学部は四五年から法学部のコ

修要項が文語調から口語調になつたのか、という質問でした。一瞬にして走馬灯のように五十七年前を思い出しました。それは昭和四四年の中央大学法学部履修要項からですと答えました（実は誤り）。

当時は履修ガイダンスもなく、学科別履修科目一覧と単位とは：という文部省の説明の写しのような文があるだけの至極簡単で、新入生が読んでも難解、サークルの先輩に聞いてやつと分かるような薄い冊子でした。私は昭和四三年新入職員になつた十月、この履修要項の担当を命じられました。

誰に相談しても無反応、この秋から過激な大学紛争が始まり、要項の検討すらできない日々が続きました。暴力学生に机や椅子を中庭に持ち出され、その修復作業も毎日加わり、仕事どころの騒ぎでは



昭和44年度の「経済学部学習の手びき」。

当時は、読書百篇意自ずから通ずという時代で、分からぬ人が悪いという時代でした。誰でも理解できるように書く、という時代ではなかつたです。中央大学では四十一年間、在職中誰にも評価されない仕事でしたが、誇らしく思い出しました。これも福井千春先生のお陰かも知れ

因みにこの時は、首都圏の大学も関西の大学も旧体依然とした体裁でしたが、その後数年でスタイルが変わりました。各大学と要項の交換をしていたので分かりました。後日調べましたら口語調は推測ですが、新制大学になつた昭和二八年以降かなっています。ただ私の新入生目線の改革では、対象年次別、月別での学部事務室手続き等分かりやすくしました。後日これが新入生履修ガイダンスへ発展していく契機になつたと思っています。

ません。また、青山先生はセメスター制の授業で大学に通うのが少々大変と話されました。そこでまた三〇年程前を思い出しました。

◆経済学部事務室時代の提案
○セメスター制

私は四十五歳から四年間経済学部事務室に勤務していました。当時今は亡き米田康彦学部長がおられ、話

会議に提出され、他学部の賛同を募ったそうですが、当時商学部長の酒井正三郎先生が賛同され、その数年後から経商で始まり、今はほぼ全国の大学で実施しているようです。この利点は、①専門科目をより集中して学べ、学習効果が上がる；私の学生時代からの熱望、②隔年開講科目もあり留学に行く人来る人に単位換算等トラブル解消、③当時秋入学が検討されていたが解消、でした。

○他学部履修30単位

当時は大学間競争激化が始まり、似通つた科目の重複での新学部が全国で増えていました。

他学部履修を7科目も学べれば多

他学部履修を7科目も学べれば多様な学問も身に付くし、似通った学部増設の手間も省けるのではない
か、また興味のある科目の勉強が一
番身に付く、との考え方で提案しまし
た。これは受験生に売り物になると

思いましたが、広報や学部事務室の人達には理解できなかつたと感じました。受験生の話をよく聞けば分かることですが。

○特別入試の見直し
多摩移転頃から指
流行り、本学も真似

多摩移転頃から指定校推薦制度が流行り、本学も真似しました。私は疑問に思っていました。やはり半年でもよいから高校時代死に物狂いで勉強する試練が将来役立つと感じていました。高三の一学期まで定期試験で二年生の頃より大差はないのですが、

例です

中には良い生徒がいるのは事実ですが、入試形態別の調査が必要で、退職時に司法試験合格者の入試形態別で十年程を調査したことがありま
す。指定校は一般的の三割程度で、公認会計士試験は四割で、かかるバイを捨てたのです。推薦制度を増や

創意・工夫・発想、知恵と戦略との結果を職員の評価の対象にしなければ、また信賞必罰もなければ活性化しないは必定です。それが私の知る限り六〇年続いている、と思っています。都心展開で何とかなると田う人はいないと思いますが、…。

また、多摩移転早々出生数が減少し始めた時、即大学の危機感を感じている人もおられ説得は難しく、ジリ貧になつたと感じます。

て一般入試の枠を狭める偏差値維持策は、一般受験生に見透かされ敵に回すだけで、この学生達とよく話していたので残念に思いました。米田学部長にもお話ししましたが、確信している人もおられ説得は難しく、ジリ貧になつた感じです。

また、多摩移転早々出生数が減少し始めた時、即大学の危機感を感じました。教職員誰一人危機感を持つ人はいませんでした。他大学が手を打つ前に策を講じなければジリ貧になります。私は考えがありましたが誰も耳を傾けず、このとき法人教学も危機感の無い風土で残念に思つたことがあります：戦略なき度重なる受験料、学費の値上げが良い例です。

運命は性格の中にある（芥川龍之介）、という箴言があります。個人組織、国家とて然り、と思う今日この頃です。この大学を良くするには、創意・工夫・発想、知恵と戦略との結果を職員の評価の対象にしなければ、また信賞必罰もなければ活性化しないは必定です。それが私の知る限り六〇年続いている、と思っています。都心展開で何とかなると思ふ人はいないと思いますが、…。

定年退職を前にして思う」と

経済学部教授 浅田統一郎



私は、早稲田大学政治経済学部、一橋大学大学院経済学研究科に学生として在籍後、一九八三年四月に駒澤大学経済学部に教員として赴任し、一〇年間を駒澤大学で専任講師および助教授として過ごしました。その後一九九三年四月、中央大学経済学部に公共経済学科が新設されるに伴って中央大学経済学部に移り、それ以来実に三〇年以上を、中央大学経済学部で助教授および教授として過ごし、二〇二五年三月に中央大学を定年退職することになりました。

中央大学経済学部では、一年次の必修科目である「基礎マクロ経済学」および「基礎ミクロ経済学」を長年担当してきましたが、研究テーマとしては、主として「ケインズ派マクロ経済動学」(Keynesian Macroeconomic Dynamics) と呼ばれる分野で研究を行ってきました。二月二日に予定されている最終講義の題名も、「ケインズ派マクロ経済動学の系譜」としました。マクロ経済学は、個別の市場における価格や生産量の決定について詳細に研究するミクロ経済学とは異なり、国民所得、物価、失業率、政府財政収支、国際収支等の「集計変数」(aggregate variables、経済全体で集計したり平均化したりして計算される経済指標) を用いて、一国経済全体のパフォーマンスを分析する经济学の分野であり、「マクロ経済動学」とは、様々な経済変数が時間を通じてどう動いていくかを、数学的解析とコンピューターを用いた数值シミュレーションを併用して分析する、理論経済学の一分野です。

ケインズ派のマクロ経済学とは、市場メカニズムが万全に機能して労働の完全雇用(非自発的失業がないこと)を伴う均衡状態(調和的な状態)が自動的に達成されることを前提にした新古典派経済学とは異なり、政府や中央銀行が適切な財政金融政策を実施しない限り、完全雇用状態を維持できないという理論であ

ズ派マクロ経済動学」(Keynesian Macroeconomic Dynamics) と呼ばれる分野で研究を行ってきました。二月二日に予定されている最終講義の題名も、「ケインズ派マクロ経済動学の系譜」としました。マクロ経済学は、個別の市場における価格や生産量の決定について詳細に研究するミクロ経済学とは異なり、国民所得、物価、失業率、政府財政収支、国際収支等の「集計変数」(aggregate variables、経済全体で集計したり平均化したりして計算される経済指標) を用いて、一国経済全体のパフォーマンスを分析する经济学の分野であり、「マクロ経済動学」とは、様々な経済変数が時間を通じてどう動いていくかを、数学的解析とコンピューターを用いた数值シミュレーションを併用して分析する、理論経済学の一分野です。

私は以上の研究テーマを深く掘り下げ、一定の成果を挙げてきたことを自負していますが、他方、学内行政への貢献としては、学術連盟経済学会会長(後に副会長)、現在の会長は経済学部の飯島教授)、経済学部長補佐、入試管理委員会委員長、評議員、経済研究所長、学長補佐等を歴任しました。以上の役職とはやや異質ですが、個人的には、二〇〇八年一月から一年間、藤原委員長(文学部)、宮本書記次長(経済学部)、緑川書記次長(文学部)等とともに、教員組合書記長として活動し、当時の理事会が二〇〇六年と二〇〇七年に不当にも引き下げた一時金を元に戻すことができたことを誇りに思っています。この事件は当時学内で大きな問題になっていましたが、今では、ほとんど忘れられてすっかり過去のエピソードになってしまい、

二〇〇九年以降中央大学に赴任した教職員には、そのようなことがあったことさえ認識されていないと思っています。ちなみに、その後、私は、大学院時代から今日に至るまで、私は以上の研究テーマを深く掘り下げ、一定の成果を挙げてきたことを自負していますが、他方、学内行政への貢献としては、学術連盟経済学会会長(後に副会長)、現在の会長は経済学部の飯島教授)、経済学部長補佐、入試管理委員会委員長、評議員、経済研究所長、学長補佐等を歴任しましたが、このことにより、組合員として定年を迎えることができました。三〇年以上に及ぶ中央大学の在職期間中、公私にわたって良き仲間、友人に恵まれたことに、感謝しています。

引き続き、「経済学部創立百周年記念奨学金」へのご寄付を募っています

詳細は中大WEBサイトにて。経済学部トップから赤色のバナーをクリック。スマホはQRコードから。

